

ハッサク^{りよくはんしょうじょう}緑斑症状の発生原因と防除対策

果樹試験場

研究のねらい

ハッサクの緑斑症状の被害は、これまで少なかったが、近年広範囲に発生し商品価値の低下が問題になっています。そこで、この発生原因と防除対策を明らかにします。

研究の成果

1. 発症部からの菌の分離では、約90%の割合で炭疽病菌が分離されます（表1）。
2. ハッサクの緑斑症状は、炭疽病菌を人為的に接種すると9月中旬から10月の接種で発症します（表省略）。
3. ハッサク園(29カ所)の平成15年の発生園率は100%、発生樹率は80%、発生果率は10%です（表省略）。
4. 防除対策は、8月下旬に果実直上部の枯枝を除去すると、発生果率が無処理の約1/2に減少し、枯枝除去と9月中旬のマンゼブ水和剤散布を併用すると発生が認められません（表2）。

成果の活用面・留意点

1. 枯枝除去は、除去後新たな枯れ枝が発生する可能性があるため、感染時期の直前に行います。
2. 果実付近の枯枝のみの除去でも有効と思われるますが、黒点病伝染源除去効果も期待できることから、結果層の枯枝をできるだけ除去する方が望ましいでしょう。
3. マンゼブ水和剤の使用に際し、後半の散布となるため定められた希釈倍数、使用回数、収穫前使用日数を厳守して下さい。

表1 発症部からの分離結果

分離部位	置床数	種類別分離割合(%)		
		炭疽病菌	その他糸状菌	分離されず
緑斑症状	231	93.1	1.7	5.2
炭疽病菌	51	90.2	2.0	7.8
健全部	90	8.9	11.1	80.0



ハッサク果実の緑斑症状

表2 果実直上部の枯れ枝除去と薬剤散布による防除試験
緑斑症状

区	マンゼブ剤の散布	枯れ枝除去	発生		防除価
			発生果率(%)	発生度	
1	○	○	0.0	0.0	100
2	○	×	20.7	13.8	59
3	×	○	27.3	18.2	45
4	×	×	50.0	33.3	—

注)○:実施した ×:実施しなかった